

令和5年度東京都立片倉高等学校 学校経営報告

1 令和5年度の取組と自己評価

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症について、年度途中の5月8日から第二類から第五類に変更され日々の教育活動が感染症対策前の状態に戻っていく過程の年度であった。6月の文化祭や9月の体育祭も外部の方の参観を認め、また、2月には第二学年の沖縄修学旅行も無事に実施することができた。確実に生徒の笑顔が戻ってきた1年であった。

学校の取組や生徒の様子を広く知ってもらおうと、学校のホームページの更新にもこだわった。特に部活動の顧問が本校生徒に対してはもとより、中学生や中学生の保護者を意識した情報発信を行い、本校生徒の日々の活動について広く伝えることができた。

特に部活動については、熱心に取り組んでいる生徒が多く頼もしさを感じる一方、本校の部活動に魅力を感じて片倉高校に入学し、入部したにも関わらず、途中部活動をやめてしまう事案も報告されている。いかに継続させるかが今後の課題と考える。

昨年度課題として挙げていた先生方はICT等の授業実践に取り組んでいるかという質問に対しての生徒の回答は、前年度から1.5%改善の81.5%となった。また昨年度、課題とした火災や震災などに対する取組についての生徒の回答は、前年度から6.4%改善の75.9%となった。地域や消防署との連携などが評価されたと考える。

積極的に本校の特色や魅力をホームページなどで情報発信しているところであるが、残念なことに本校の30%の生徒が本校の特色を友人に説明できるかとの問いに対し、できない・わからないと回答している。このことは本校の特色や特に力を入れている取組などを理解していないととらえ、次年度はさらに生徒にとって自慢したくなるような魅力ある学校づくりを進めていく。

2 令和5年度取組目標・方策の評価について

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、生徒が感染症対策前まで行われていた従来の学校生活に戻るよう行事などを復活させ、生徒の進路希望を実現するために、生徒の集団への帰属意識と職責の萌芽と経験を重ねさせることで自尊感情を高めさせることを目標に教育活動を展開した。生徒進路実現については、生徒が目指す進路方面の高い目標に挑戦するというよりも安全志向で進路を選択する雰囲気強く現れた結果であった。学校が考えるような結果に結びつかなかったものもあったが、夢をかなえるために数年の年月をおして自分の夢を叶えた事例もあった。次年度の課題として再度取り組んでいくつもりである。

3 今年度の取組目標と方策に関する評価

各項目について、授業観察、授業評価アンケート（「授」）、学校評価アンケート（「学」）、企画調整会議・職員会議等会議の報告を集約して報告する。

評価欄については **A達成、B概ね達成、Cあまり達成できなかった、「-**判断できないとしてある。

教育活動の目標と方策	重点目標と方策（数値目標）	評価
(1) 学校経営について		
①生徒の進路実現につながる教育活動を実践し、教職員一丸となって学校経営上の課題解決に取り組む。	・課題解決のための校内研修年3回以上 ・全教職員による相互授業観察一人3回以上	A 3回実施 B 概ね達成
②自律経営推進予算の適正な予算計画及び効果的な執行に努める。また、教員と経営企画室との連携強化を図り、学校運営への経営参画の充実を図る。	・一般需用費の予算執行率95%以上 ・一般需用費の支援センター利用率90%以上 ・学校徴収金の未納率0%	B 概ね達成 B 請求が可能なものはすべて利用 B ほぼ0%
③生徒にとって安全・安心な教育環境を提供するために校内美化に努めるとともに必要な施設改修等について東京都教育委員会と協議し、整備する。	・学校設備の不備による生徒の事故0件 ・校内美化にかかわる活動年3回以上 ・防災・減災を高める活動年2回以上	A 設備事故0件 A 3回実施 A 2回実施
④ご有無の効率化によるライフ・ワーク・バランスを推進する	・職員会議・委員会等を60分未満で実施	A 達成
(2) 学習指導・進路指導について		
①教科会を中心とした教科マネジメントを確立させるとともに、生徒の希望進路に必	・ICT等を活用した授業実践に取り組む教員100%以上	B 87.5%

要な学力を確実に定着させる主体的で深い学びを追求した高品質の授業を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同一学年同一教科の定期考査問題共通化 ・生徒の主体的な学習を取り入れた授業に取り組む教員 80%以上 ・生徒の授業満足度 80%以上 	<p>B 70.5%</p> <p>A 86.4%</p> <p>A 85.4%</p>
②3年間を見通した本校のキャリア教育に沿った系統的な進路実現計画に基づく進路指導を組織的な連携のもとに推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象進路説明会年3回以上 ・保護者対象進路説明会年1回以上 ・進路決定率 95% 	<p>A 対象を変えながら達成</p> <p>A 各学年で実施</p> <p>B 92.7%</p>
③新学習指導要領に対応した教育課程と本校のグランドデザインを基に、スクールミッションとスクールポリシーに沿った教育活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程における評価方法等の授業研究を含む校内研修を年3回以上 	<p>B 対象者を絞って実施</p>
(3) 生活指導について		
①学校行事や各種集会・HR活動などあらゆる場面を活用し、規則正しい生活習慣や規範意識を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒年間総遅刻回数 6000回以下 ・チャイム着席の徹底 100% 	<p>C 未達成 (7686回)</p> <p>B 概ね達成</p>
②全教職員が指導方針や指導方法を共通理解するとともに、一丸となって生徒の自己規律を遵守する力を高め、社会人としての基本的なルールやマナーを身に付け実践できる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・時に厳しいが自分のためを思って指導してくれていると考える生徒肯定的評価割合 80%以上 ・学校は生徒の相談に気軽に丁寧に応じていると考える生徒の肯定評価割合 80%以上 ・特別指導による退学生徒 0名 	<p>A 83.2%</p> <p>A 82.8%</p> <p>A 達成</p>
③いじめの未然防止や体罰等の根絶、若者の自殺防止に日常的に組織的に取り組み、早期発見・早期対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象のいじめ調査を年3回以上実施 ・生徒対象の体罰調査を年2回以上実施 ・教員対象体罰調査を年1回以上実施 ・いじめ防止及び自殺防止に向けた学校の取組みに対する生徒の肯定的評価 80%以上 	<p>A 3回実施した</p> <p>A 2回実施した</p> <p>A 2回実施した</p> <p>A 82.8%</p>
④保護者・地域関係者等と連携し、栄養・運動・休養の三原則を基に、生徒の健康の保持増進と体力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりを年6回以上発行 ・保健に関わる研修会を1回以上実施 ・特別支援、教育相談に関する会議を年3回以上開催 	<p>C 未達成</p> <p>A 実施した</p> <p>A 3回実施した</p>
(4) 特別活動について		
①特別活動や部活動などを生徒が主体的に協働する場となるように努め、情操を豊かにするとともに生徒に望ましい帰属意識をもたせ、自尊感情の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭に積極的に参加したと考える生徒の割合 90%以上 ・生徒会の主体の行事年2回以上実施 ・各学年生徒主体の行事年1回以上実施 	<p>A 91.9%</p> <p>A 実施</p> <p>A 実施 球技大会等</p>
②行事や部活動などを通して、目標に向かって準備し、練習するといった一連の実践により生徒の総合的な人間力の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生の部活動加入率 80%以上 ・複数の高校もしくは生徒が参加する大会に参加する部活動の割合 100% 	<p>C 66.3%</p> <p>A 他校との合同チームの参加を含む</p>
(5) 造形美術コースについて		
①造形美術コース運営委員会の運営を推進し、全教職員の連携をより一層深め、生徒一人ひとりの創造的な能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の開催を年5回以上 	<p>C 未達成</p>
②生徒・保護者のニーズを把握し、造形美術コース独自の3年間の進路実現計画に沿って、希望進路実現に尽力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の教科担当者を含めた拡大学年會を年2回以上実施 ・美術系大学希望者の進路決定率 80%以上 	<p>A 2回実施</p> <p>B 67.5%</p>
③造形美術コースの教育活動を近隣中学校や地域社会に向けて広く発信することで、入学希望者を発掘する。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者向け説明会を年10回以上実施 ・中学生デッサン教室参加者年間 100名以上 	<p>A 10回</p> <p>A 達成 造形美術コースの紹介にも貢献した</p>

(6) 組織体制の充実について		
① 服務事故を防止するために校内研修等の事故防止に向けた取組を確実に実行。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故案件の発生 0 件 ・ 服務事故防止研修年 3 回以上実施 ・ 校内体罰防止調査年 2 回以上実施 	A 0 件 A 3 回 A 2 回
② 教育系職員と行政系職員の報告・連絡・相談を円滑に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分掌や各学年と経営企画室連絡会を年 2 回 以上実施 ・ 部活動予算の執行率を予算に基づき 100% 執行 	A 達成 A 達成
③ 計画的な仕事の進行管理により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりの適切なライフ・ワーク・バランスの実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員年休取得 10 日以上 ・ 教職員の勤務時間外校内滞在時間前年比較マイナス 10 分 	A 達成 —
④ 企画調整会議の機能を強化し、学校経営方針の理解浸透を図るとともに各分掌からの意見聴取などにより全教職員の経営参画を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画調整会議の充実により職員会議を 60 分未満で実施 	A 達成
⑤ 全教職員による広報活動を通して、地域社会や地域の学校に本校の教育活動への理解を深めてもらうとともに、本校に進学を希望する生徒の募集増を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のウェブページ更新回数 500 回以上 ・ 普通科及び造形美術コース共に入試倍率 推薦 3.0 倍以上 学力一次 1.3 倍以上 	A 部活動報告などが数字を伸ばした。 A 推薦 普通科 4.0 倍 造形美術 3.0 倍 学力 普通科 1.2 倍 造形美術 1.2 倍
⑥ 生徒のオンライン学習及び校内 ICT 環境整備と充実のために、生徒のタブレット活用に関する方針や方策について検討し、体制構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 委員会開催年間 3 回以上 ・ オンライン学習及びタブレット活用に向けた教科主任による方策検討年間 3 回以上 	C 委員会としては未開催 C 学年単位で実施のため オンライン学習日は実施